

公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館は、東京都とともに、オリンピック・パラリンピックが開催される東京を文化の面から盛り上げる「Tokyo Tokyo FESTIVAL」を展開しています。

東京都現代美術館

Viva Video! 久保田成子展

2021年11月13日（土）－2022年2月23日（水・祝）



1 メインビジュアル 写真：トム・ハール デザイン：佐々木暁

東京都現代美術館では、新潟に生まれ、国際的に活躍した久保田成子（1937-2015年）の没後初、日本では約30年ぶりの大規模な個展を開催します。映像と彫刻を組み合わせた「ビデオ彫刻」で知られる久保田は、ビデオ・アートの先駆者の一人とみなされています。しかしながら、彼女の現代美術への貢献は、十分に評価されているとはいえません。

本展の目的は、アメリカを拠点に日本人女性アーティストとして活動した久保田成子について、最新かつ文脈に沿った研究成果を国際的な観客に提供することにあります。2015年に彼女が亡くなった直後、その遺産を保護し、さらに発展させるために、久保田成子ビデオ・アート財団がニューヨークに設立されました。財団の全面的協力によって開催される本展では、復元されたビデオ彫刻のほか、作家によって保管されていたドローイング、資料などを中心に、国内美術館の所蔵品や作家の遺族からの借用品を含め、初公開資料を多数展示します。

ビデオというメディアの黎明期に、世界を舞台に自らの芸術を展開する一人の女性作家として、何を考え、どのように表現を追求したのか。新潟県立近代美術館、国立国際美術館との協働で企画された本展では、代表作「デュシャンピアナ」シリーズをはじめ、ビデオ彫刻、映像作品、それらのためのスケッチやアーカイヴ資料などにより、久保田の仕事を多角的に展覧します。

展覧会のみどころ

ー 没後初、日本では約 30 年ぶりの大規模個展で、日本初公開作品・資料も多数展示

1992年の冬季オリンピックで銀メダルを獲得したフィギュアスケート選手、伊藤みどりをモデルにした《スケート選手》(1991-92年)や夫ナムジュン・パイクの故郷の墓をモチーフにした《韓国の墓》(1993年)などは日本初公開のビデオ彫刻です。また、様々な作家との交流を示す写真や手紙といった資料の多くは世界初公開となります。



2 《スケート選手》1991-92年
久保田成子ビデオ・アート財団蔵
(新潟県立近代美術館での展示風景、2021年)
撮影：吉原悠博



3 《韓国の墓》1993年
久保田成子ビデオ・アート財団蔵
(新潟県立近代美術館での展示風景、2021年)
撮影：吉原悠博

ー ビデオ彫刻以前の活動を含む、久保田の初期から晩年までの創作活動を紹介

ビデオ彫刻で一躍有名になる以前の「フルクサス」での活動や「ソニック・アーツ・ユニオン」との関わり、またビデオ・アートに取り組み始めた最初期の活動といった、これまでほとんど知られていなかった久保田成子の一面をご紹介します。

ー 代表作「デュシャンピアナ」シリーズを一堂に展示

マルセル・デュシャンとの出会いから作られた一連の代表作を一堂に会し、デュシャンへの敬意とそれを乗り越えようとする久保田の挑戦を、作品を通してご覧いただけます。



4 《デュシャンピアナ：自転車の車輪 1, 2, 3》と《三つの山》の展示風景
(原美術館、1992年) 撮影：内田芳孝
Courtesy of Shigeeko Kubota Video Art Foundation, ©Estate of Shigeeko Kubota



5 《メタ・マルセル：窓（花）》(部分) 1976-77/83年
Photo by Peter Moore, Courtesy of Shigeeko Kubota Video Art Foundation, ©Estate of Shigeeko Kubota

展覧会の構成

1. 初期：新潟から東京へ

久保田の新潟での生い立ちと東京での活動を、個人的な資料や写真、初期の作品などを通して紹介します。

1937年生まれの久保田は比較的自由な家庭環境で育ち、彫刻家を志して東京教育大学(現・筑波大学)で学びました。1960年に大学を卒業すると、東京の前衛美術のコミュニティに参加しました。内科画廊での初個展(1963年)の資料とともに、同時代のグループ音楽、ハイレッド・センター、オノ・ヨーコやナムジュン・パイクらとの関係を紹介しながら、東京時代の久保田の足跡を明らかにしていきます。女性アーティストの活躍の場が限られていることに失望した久保田は1964年、ニューヨークへの移住を決意します。

2. 渡米：フルクサス、パフォーマンス、ソニック・アーツ・ユニオン

渡米した1964年以降、前衛芸術家集団「フルクサス」での活動や、ニューヨークを拠点とする国際的なアーティストたちとの交流をたどります。

久保田は、フルクサスの代表であるジョージ・マチューナスと協働しながら、ウィットに富んだフルクサスのオブジェ《フルックス・ナプキン》(1965年)や《フルックス・メディシン》(1966年)を制作しました。フルクサスのイベントの一環として発表したパフォーマンス《ヴァギナ・ペインティング》(1965年)は一部に悪評を呼びましたが、その妥当性は現在、美術史や社会文化史の中で評価されています。

また、60年代終わりでは、彼女の最初の夫である作曲家デイヴィッド・バーマンを含むソニック・アーツ・ユニオンとの関わりにも焦点を当てます。

3. ビデオとの出会い

1970年代に入ると、生涯のパートナーとなるナムジュン・パイクとの共同生活から、ビデオを使った作品の制作に着手します。

ソニーのポータパックを担ぎ、一人でヨーロッパを旅しながら撮影した初期のシングルチャンネル・ビデオ作品《ブローケン・ダイアリー：ヨーロッパを一日ハーフィンチで》(1972年)をはじめ、メアリー・ルシエなどの女性アーティストとのコラボレーションも紹介され、ビデオというメディアへの移行を示します。



6 Shigeko Kubota Portrait © Tom Haar, 1972

Courtesy of Tom Haar and Shigeko Kubota Video Art Foundation

※この画像は新聞に掲載する場合に限り、画像使用料が免除されます。

新聞以外にこの画像を掲載される際は、画像使用料を著作権者に確認していただく必要があります。

4. 「デュシャンピアナ」シリーズ：ビデオ彫刻の誕生

1968年のマルセル・デュシャンとの偶然の出会いから、デュシャンとジョン・ケージのチェス・コンサート「リュニオン」を題材とした音声記録付き作品集『マルセル・デュシャンとジョン・ケージ』（1970年）を発表します。その後、デュシャンへのオマージュとして始めた「デュシャンピアナ」のシリーズでは、久保田の代名詞となるビデオ彫刻の傑作を生み出しました。そのうちの一つ《デュシャンピアナ：階段を降りる裸体》（1975-76/83年）は、階段を歩く女性ヌードモデルの動きを木製の階段の中に設置された4台のモニターに映し出したもので、デュシャンの有名な絵画を映像という媒体でウィットに富んだ解釈で再構成。ニューヨーク近代美術館が初めて収蔵したビデオ・インスタレーション作品となりました。1977年にドイツのカッセルで開催された国際美術展「ドクメンタ VI」に招待されて以降は、ヨーロッパを含め国際的に評価が高まります。



7 《デュシャンピアナ：階段を降りる裸体》1975-76/83年
富山県美術館蔵（新潟県立近代美術館での展示風景、2021年）
撮影：吉原悠博



8 《三つの山》1976-79年
Photo by Peter Moore, Courtesy of Shigeko Kubota Video
Art Foundation, ©Estate of Shigeko Kubota

5. ビデオ彫刻の拡張

1980年頃から制作された作品では、水やモーター、プロジェクションによる動きといった要素を取り入れていきます。それによって、ビデオ彫刻が空間的にも時間的にも拡張していく様子を紹介します。

《河》（1979-81年）は、天井から下向きに吊るされた3台のモニターと、揺れ動く水で満たされたステンレス製の水槽で構成されています。《ナイアガラの滝》（1985/2021年）は、大小10台のモニターが組み込まれた構造物の前にシャワーが置かれ、滝のように水が滴り落ちます。これらの作品は鑑賞者に複数の視点からの相互作用と思索を誘います。



9 《河》1979-81年
Photo by Peter Moore, Courtesy of Shigeko Kubota Video
Art Foundation, ©Estate of Shigeko Kubota



10 《ナイアガラの滝》1985/2021年
久保田成子ビデオ・アート財団蔵
（新潟県立近代美術館での展示風景、2021年）撮影：吉原悠博

6. 芸術と人生

1991年にニューヨークのアメリカン・ミュージアム・オブ・ザ・ムービング・イメージで開催された美術館での初個展は、東京をはじめ国際巡回しましたが、1996年に夫のバイクが脳梗塞で倒れたことで、久保田は作家としてのキャリアの中断を余儀なくされました。

2006年にバイクが亡くなるまでの10年間、障害のある夫を全面的にサポートした後、人生の最後の10年間は自らも病と闘いながら、バイクへの愛をテーマにしたユーモアのある作品を制作します。



11 《セクシュアル・ヒーリング》1998年
Courtesy Electronic Arts Intermix (EAI), NY

関連イベント

シンポジウム、ギャラリートークなどを開催予定。詳細は決まり次第、当館ウェブサイトおよびTwitterでお知らせします。

展覧会概要

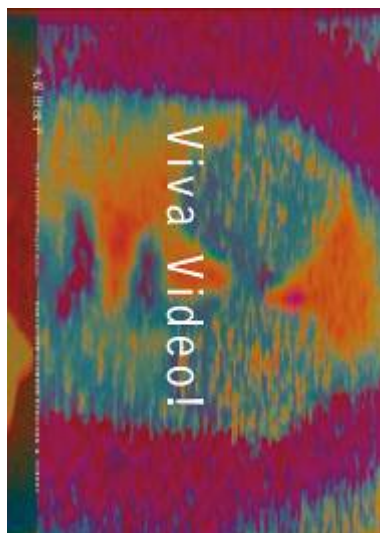
会期	2021年11月13日(土) - 2022年2月23日(水・祝)
休館日	月曜日(2022年1月10日、2月21日は開館)、12月28日-2022年1月1日、1月11日
開館時間	10:00-18:00(展示室入場は閉館の30分前まで)
観覧料	一般 1,400円/大学生・専門学校生・65歳以上 1,000円/中高生 600円/小学生以下無料
会場	東京都現代美術館 企画展示室 3F
主催	公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会
協賛	ライオン、DNP 大日本印刷、損保ジャパン、日本テレビ放送網
助成	テラ・アメリカ美術基金、文化庁・令和2年度文化庁優れた現代美術の国際発信促進事業、ポーラ美術振興財団
企画	濱田真由美(新潟県立近代美術館) 橋本梓(国立国際美術館) 由本みどり(ニュージャージー・シティ大学准教授/ギャラリーディレクター) 西川美穂子(東京都現代美術館)

展覧会カタログ

本展覧会にあわせて、作家によるテキスト、学術的なエッセイ、最新の文献リスト、年表を掲載した日英バイリンガルのカタログを刊行。展示写真を含む、国内初のモノグラフです。

『Viva Video! 久保田成子』展覧会公式カタログ

B5版 292ページ 3,100円（税別）河出書房新社より；



同時期開催

2021年11月20日（土）－2022年2月23日（水）

「クリスチャン・マークレー展」（企画展）

「ユージーン・スタジオ 新しい海 After the rainbow」（企画展）

同時開催

「MOT コレクション」（コレクション展）

All works © 2021, Shigeko Kubota Video Art Foundation

お問い合わせ：東京都現代美術館 事業企画課 企画係 広報班 工藤・中島
TEL：03-5245-1134（直通）/ FAX：03-5245-1141
E-MAIL：mot-pr@mot-art.jp URL：https://www.mot-art-museum.jp

※開催内容は、都合により変更になる場合がございます。予めご了承ください。

画像請求書

広報用図版として 11 点をご用意しております。掲載ご希望の方はお手数ですが本請求書に必要事項をご記入の上、FAX またはメールにてご連絡ください。なお、写真の使用に際し、**キャプションは、作家名、作品名、制作年、コピーライト等を必ずご表記ください。作品のトリミング、編集、文字載せはお控えください。**本展記事をご紹介いただく場合には、恐れ入りますが情報確認のための校正原稿をお送りいただき、掲載後には、掲載誌（紙）、HP リンク、DVD、CD 等を広報班宛てにお送りください。

媒体名：

発売・放送予定日：

種 別： T V ラジオ 新聞 雑誌 フリーペーパー ネット媒体 携帯媒体 その他

御社名：

ご担当者名：

Eメールアドレス：

ご住所：

T E L：

F A X：

ご希望の図版番号に印をお付けください。

- 1 メインビジュアル 写真：トム・ハール デザイン：佐々木暁
- 2 《スケート選手》1991-92 年
久保田成子ビデオ・アート財団蔵（新潟県立近代美術館での展示風景、2021 年）撮影：吉原悠博
- 3 《韓国の墓》1993 年
久保田成子ビデオ・アート財団蔵（新潟県立近代美術館での展示風景、2021 年）撮影：吉原悠博
- 4 《デュシャンピアナ：自転車の車輪 1, 2, 3》と《三つの山》の展示風景（原美術館、1992 年）
撮影：内田芳孝 Courtesy of Shigeko Kubota Video Art Foundation, ©Estate of Shigeko Kubota
- 5 《メタ・マルセル：窓（花）》（部分）1976-77/83 年
Photo by Peter Moore, Courtesy of Shigeko Kubota Video Art Foundation, ©Estate of Shigeko Kubota
- 6 Shigeko Kubota Portrait © Tom Haar, 1972
Courtesy of Tom Haar and Shigeko Kubota Video Art Foundation
※この画像は新聞に掲載する場合に限り、画像使用料が免除されます。新聞以外にこの画像を掲載される際は、画像使用料を著作権者に確認していただく必要があります。
- 7 《デュシャンピアナ：階段を降りる裸体》1975-76/83 年
富山県美術館蔵（新潟県立近代美術館での展示風景、2021 年）撮影：吉原悠博
- 8 《三つの山》1976-79 年
Photo by Peter Moore, Courtesy of Shigeko Kubota Video Art Foundation, ©Estate of Shigeko Kubota
- 9 《河》1979-81 年
Photo by Peter Moore, Courtesy of Shigeko Kubota Video Art Foundation, ©Estate of Shigeko Kubota
- 10 《ナイアガラ滝》1985/2021 年
久保田成子ビデオ・アート財団蔵（新潟県立近代美術館での展示風景、2021 年）撮影：吉原悠博
- 11 《セクシュアル・ヒーリング》1998 年
Courtesy Electronic Arts Intermix (EAI), NY